

「オンタイムです」 5月から、こんなアナウンスで始まる庁内放送が聞こえるようになりました。

## 情

報の共有化。それは意外に難しいものです。発信者の側は十分にお知らせしているつもりでも、なかなかうまく伝わりません。企業が商品を新発売したら、「これでもか」、「しつこいなあ」というほどに何度も何度もTVコマーシャルを流しますね。あれくらいのことをしなければ、消費者は気にとめてくれないということなのでしょう。

## そ

こで、庁内放送を有効活用しようということになりました。これまでの庁内放送は「本日はノー残業デーです…」という放送が流されるくらいでした。せっかくの放送設備が“宝の持ち腐れ”になっていたわけです。政策経営室は、放送設備を管理している「行政管理部 管財建設課」に、放送活用の相談をもちかけました。管財建設課では課長はじめ、課員がこぞって積極的に取り組む意向を示してくれました。管財建設課との相談の結果、せっかくやるなら、お知らせだけではなく、お昼休みにBGMを流してみようということになりました。また、庁内放送に愛称をつけて、職員みんなに親んでもらえる放送にしようということになりました。愛称は、政策経営室と行政管理部の職員でいろいろなアイデアを出し合った結果、「オンタイム」に決めました。

## お

昼休みのBGMタイムもはじめました。仕事に向かう意欲を高めるため、少しでも職場環境をよくしようと、クラシックなど歌詞のない穏やかな曲を中心に流しています。それでも、「休憩時間なのに好きでもない音を聞かされるのはいやだ」とか、「ボリュームが大きすぎて耳障りだ」といった苦情もありました。しかし、管財建設課の職員は、ひとつひとつの職場を回って、職員が納得できるまで調整してくれました。苦情ばかりではありません。「 日前の昼休みに流れていたBGMは何というタイトルだったっけ? いい曲だったんだよなあ」などと尋ねてきた職員もいました。「今日の曲はよかったよね」とか「この曲は懐かしいねえ」という声も聞かれるようになりました。「オンタイム」によって、情報の共有化が確実に進んでいるかどうかは、正直なところ、まだわかりません。しかし、こうした“小さいけれど、着実な改善・改革”を、職員が前向きに取り組むきっかけになったことは、これから大きな改革運動を進めていくうえでの大きな励みになりました。

## 行

政は、ちょっとした改善・改革にも後ろ向きになりがちです。市民活動や民間企業のように、「思いついたが吉日」と、迅速に動き始めることを苦手としていました。それが行政の“文化”でした。明治維新以降の約130年間に、行政内部に堆積した習慣です。これからの改革は、そのような行政文化そのものを変える運動にしなければなりません。小手先の手法を改善するだけでは、何も変わりません。一瞬、変わったように見えても、すぐにまた元通りに戻ってしまうでしょう。

## そ

こで、私たちは「行政革命」を起こすことにしました。小手先の改革ではなく、私たち行政の内部に根付いてしまっている文化、行動原理、思考原理そのものを、大胆に変えてしまう「行政革命」。9月2日には、市長を議長とする庁議「政策会議」で、「行政革命戦略 ~ 5つの宣言」を市の方針として決定しました。次号からは、この「行政革命戦略」を、わかりやすくお伝えしてまいります。